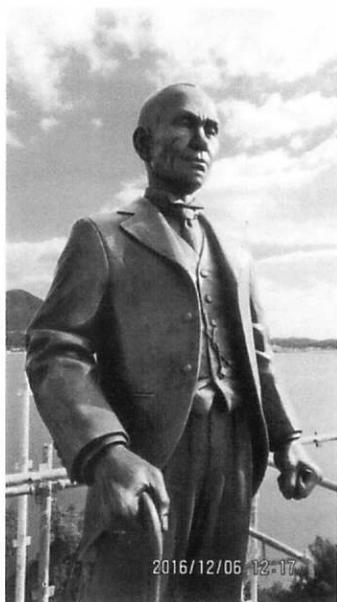




## Yes We did it !



2016/12/06 12:17

◆三年かかつて実現したこと  
この12月5日、生名にある厳島の山頂に「日本海員組合」をつくった濱田國太郎の立像が復活し、据え付けられました。

地上6メートルの台座上に、かつてあつたように身長2メートルの國太郎像が立ち、遠目に見ると國太郎を偲ぶよさがなれます。

「濱田國太郎を顕彰する会」により復活された濱田國太郎像。

平成28年12月5日、元國太郎の銅像のあった台座に据えられた。元あった銅像は、昭和18年、戦時物資調達のための「金属類供出令」により国に持ち去られ、行方不明。

◆人のため、世のためと  
争ふ國太郎さん

背面上に刻まれた文字で伺えます。

國太郎の銅像建設に携わった園師だったようですが、その後昭和15年、日本海員組合は解散させられ、日本の台座は、施工者が森岩松、石匠は中谷太之助だったことも、

濱田國太郎については、実際に語りきれない強烈なキャラクターの持ち主に思えます。

(海文堂出版・1600円)といふ本を2009年に出版されました。おかげでやっと、だれでもが國太郎の生涯を通して覗く存在となりました。

それが昭和10年のこと。同じ年に故郷生名島の一部、嚴島の現在地に國太郎の寿像(生前に作られる像)が建設されます。その後昭和15年、日本海員組合は解散させられ、日本の台座は、施工者が森岩松、石匠は中谷太之助だったことも、

手軽に移動式重機が使えるようになります。(公園登り口にある歌碑による)また地理的には、村上賢蔵という生名の造園師だったようですが、その骨太な生き方と、その人物を顕彰した当時の人々の気概に触れる場の創設は、生きづらい今の時代だからこそ、殊に意味があると、強く思います。

手軽に移動式重機が使えるようになります。うな時代ではなかつた當時、どうやってこの巨大な石の工事をやるにいたしました。おまけに、記憶を語つてやるにいたしました。そして「いつただきまくす。」感謝して食べないと天罰が下ります。

筆者は三年前、彼を顕彰する会の立ち上げから関わわり、今日までいろいろ学びがあり、今までいろいろな時代にはなかつた當時の人々の骨太な生き方と、その人物を顕彰した当時の人々の気概に触れる場の創設は、生きづらい今の時代だからこそ、殊に意味があると、強く思います。



地上8m、國太郎さんの目には、故郷の生名島が一望できる

## かつて船乗りから 海父と呼ばれた國太郎さん

◆人のため、世のためと  
学校を途中退学して船員になり、明治18年(12歳)外国航路の船員として見聞を広め、当時(明治~昭和初期)は上級船員に比べ差別甚だしく、厳しい労働環境に置かれていた下級船員の待遇改善に取り組みます。ついにはヨーロッパの労働組合をモデルにした「日本海員組合」という日本で初めての職業別労働組合をつくり、まずは下級船員の福利向上に努めました。

労働者の権利などと言う意識の極めて低かった当時にあつては、労働運動は官憲の監視下に

おかれて、運動そのものも弾圧の対象になっていました。戦後の労働運動などとは比較にならな

い厳しい活動であつたことは想像に難くありません。あるいは、命がけの運動を展開する中で、

昭和9年ころ國太郎の組合運営に内部対立も生まれます。その

責任を取り、國太郎は2代目組合長を辞することになります。

それが昭和10年のこと。同じ

年に故郷生名島の一部、嚴島の現在地に國太郎の寿像(生前に

作られる像)が建設されます。

昭和9年ころ國太郎の組合運営に内部対立も生まれます。その

責任を取り、國太郎は2代目組

合長を辞することになります。

それが昭和10年のこと。同じ

年に故郷生名島の一部、嚴島の

現在地に國太郎の寿像(生前に

作られる像)が建設されます。

昭和9年ころ國太郎の組合運営に内部対立も生まれます。その

責任を取り、國太郎は2代目組

合長を辞することになります。

それが昭和10年のこと。同じ

年に故郷生名島の一部、嚴島の

## 海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会（参加自由）  
（毎月 25 日 13 時～。生名開発センター 2F で開催）  
(28)

(元全日本海員組合中央執行委員・秦一生氏の講演メモから。その1)

◆浜田国太郎は侠気と反骨、正義感の強い人で、昭和33年85歳で亡くなった。浜田は海上労働運動のスタートとも言える郵船機関部同士会を明治42年に設立しているが、その動機となった背景には次のようなことがあったと聞かされた。

◆浜田は、日本郵船日立丸に乗船するために宇品に集結していたが、そこで賭博をやる。この賭博を仕切っていたのが新月という関西一円を縄張りとしていた暴力団だった。彼らと喧嘩になり片目が失明、同時に警察につかまり豚箱に入れられる。彼が乗船できなくなったので、通



「今次の常」と言  
われていた職長が  
乗船した。ところが  
この日立丸は軍に  
徴用されていた船  
で、日露戦争で沈め  
られ多くの船員が  
死亡。そのなかに浜  
田に代わって乗船  
した「今次の常」も  
入っていた。

◆浜田は自分に代わって亡くなつた

「今次の常」をはじめ多くの死亡した船員の補償を会社に求めるため前述の郵船機関部同士会を作る。しかし会社との交渉はうまくいかず、交渉には組織の力が必要であることを痛感、他の会社の船員にも呼びかけ、郵船機関部同士会を発展させ、日本船員同士会を結成する。

◆浜田はその後、船員の賃金などの改善にも取り組んでいたが、思うような進展が見られないなかで明治45年、横浜で22隻の船を3日間にわたって停船させ3円の賃金アップに成功。これがわが国海上労働運動の歴史に残る始めてのストライキであった。当時は労働基本権など認められてはいなかったので、このストライキは生死をかけてのものであり、配布文書などが一部資料として残されている。

-NFC法人轉れるふるさとネット」は平成23年法人登録されました。法人の定款に掲げる活動の柱は、地域住民自治の構築です。これは法人の母体が上島町自治研究会（任意団体）ということもあり、住民自治気運を高めるのが目的となるのは必然でした。

住民自治と言つても漠然としていますが、簡単に言えば、自分達の力を惜しまず出し合って、地域の活性化を図ろうということです。設立以来様々な形での地域住民の自主的な活動を応援してまし

## 頼れるふるさとネット通信

2016.12.15 発行者 特定非営利活動法人頼れるふるさとネット  
〒794-2506 愛媛県越智郡上島町下弓削 515  
☎&Fax 0897-72-9188 (事務局 / やよみ亭)  
090-8247-5279 (事務局留守時・平山)  
メール k-jitikenkyukai@amber.plala.or.jp  
ホームページ <http://tavofuru.net/>

140年前、この地に、海上労働者の権利を命がけで闘い取る男が生まれ、

## 今、その男の事を伝える 男がいる 漫画家 池田清満氏

## ■人材育成プログラム

芸術に関しては過去2名の実績があり、うち1名は若くない本職の画家でしたが、もう1名は20代の新進映画監督(小崎基広)として世に送り出されました。小崎氏は1年をかけ作り上げたデビュー作を尾道出身の映画監督大林宣彦氏に絶賛されました。今後の活躍が期待されます。

3年ほど前から生名出身の日本海員組合をつくった濱田國太郎を顕彰する会(任意団体)の活動にも関わっています。「顕彰する会」は、かつて生名の巣島にあつた國太郎の「立像

また当法人の事業は、一活動拠点「プログラム」というのがあります。町外在住の法人会員のアイデアです。法人の活動拠点（通称やよみ亭）を活用し、この町に住んで創作活動をする若者を応援する、というものです。若者の定住促進の側面もかかり、一定の生活支援（業務委託など）や助成金、住居の提供などをし、芸術家の卵に、この町で創

の復活にも取り組んでいて『弓削通信フエニックス』28年5月号に紹介されました。

■國太郎漫画完成  
また毎月二十五日に開催されている「顕彰する会」の例会で、國太郎のことを、まずは地域の人々によく知つてもらうために漫画を活用しようというこ

國太郎漫画完成

この國太郎人物伝ニミックが多くの方々のお手元に届き、わが町の子ども達にも、日本の近代化に大きな貢献をした「地域の偉人」として知つてもらつたのでの活用がされることを、心から希望しています。

どうすればそれが叶うか、鋭意提案中です。関心ある方は、ぜひ当法人まで、お問い合わせ下さい。アイデアをお寄せください。

『池田國太郎さん』として刊行されました。作・池田浩滋 氏。監修は、生名在住の國太郎研究家村上貢氏。

## 議員活動錄

(44) 上島町議会議員 平山和昭

上島町長・議会議員の改選後初議会は11月15日に開催され、議会人事および町長側からの提案議案12件、議員発議1件、他が審議されました。審議結果は新聞報道などすでにご承知とは思いますが、議会同意人事案件につき、議会側に大きな禍根を残す事態が発生しました。この問題に関しては、次の機会に詳しく報告させていただきます。

実態は幼・小くらいから、平均十年は習いに通っています。世界共通語の音符は、外国語一つ分の価値はあります。子ども時代の習いごとは確かに人生の礎になります。子どもたちの木登りを想定して、おしりをちよんと押してやればスートとはずみがつきます。親が関心を持つて子どもの成長に伴走すれば、おのずとすくすくと伸びていきます。ちなみに子ども時代にピアノを習つていたお母さんは、全体の三割ほどです。